1.　評価報告概要表

評価確定日　平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2276100308
法人名	有限会社　モリモト
事業所名	グループホーム　逢えるの里
所在地 （電話番号）	菊川市堀之内103-3 （電　話）0537-37-3200

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年7月31日

【情報提供票より】(20年　7月12日事業所記入)

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　8月　1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	17人	常勤　11　人，非常勤　6人，常勤換算　7人

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨平屋造り	
	1階建ての1階部分	

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	50,000 円		その他の経費（月額）	15,000 円
敷　　金	150,000円			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（150,000円）		有りの場合 償却の有無	有（2年）
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり　1,500円			

（4）利用者の概要（　7月　12日現在）

利用者人数		16 名	男性	2 名	女性　14 名
要介護1		2 名	要介護2		5 名
要介護3		7 名	要介護4		2 名
要介護5		0 名	要支援2		0 名
年齢	平均	86 歳	最低	76 歳	最高　99 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	木佐森医院,岡本クリニック、市立菊川総合病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、駅から歩いて数分の住宅地に建てられ、周囲には公園、学校、役場などがある。ホームの理念「普通の生活」を実践し、利用者一人ひとりを職員が暖かく支援している。利用者の穏やかで落ち着いた表情や動きに、利用者にとって安心した居場所が提供されている様子がうかがえる。住宅地にある利点を活かしながら、地域とのなじみの関係作りを進め、理念の「普通の生活」が実践されていくよう期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

地域との交流や協力体制の構築が前回評価の課題となっている。現在区画整理が行われ、地域の環境が変化しているが、運営推進会議等で近隣の自治会長の参加、協力を得て地域との交流を図ってきた。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

外部評価の意義や必要性は理解しているが、職員個々の取り組みは十分ではない。全員が取り組むことで、課題を共有し、サービスの質の向上につなぐことができるので、今後に期待する。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

自治会長、特養の施設長、行政の担当者、家族、職員の参加により開催し、活動状況や事故報告、家族の要望や希望を出してもらっている。会議により、事故防止のための手順書、記録等の整備を行うなど、運営に活かしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

月に一度はホームでの生活や近況、健康状態等を報告している。家族や本人の思いや要望が出しやすいよう、面会時には積極的に言葉掛けを行ない、必要に応じて電話連絡を行っている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

小学生やボランティアを受入れたり、地域の夏祭りに参加している。今後は運営推進会議を利用し、地域との連携の方法を検討されたい。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「普通の暮らし」を理念とし、日々の生活の中で、その人らしい生活ができるよう支援を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所と各ユニットに掲示している。利用者一人ひとりを把握し、気持ちよく生活するために、管理者、職員が意識して取り組めるようにしている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生、ボランティアの受入れは行っているが、老人会や町内会には入っていない。現在区画整理が行われ、地域の環境の変化が大きく、近隣との交流が少なくなってきている。	○	日常の挨拶やボランティアの受け入れなど、小さな積み重ねを大切にし、運営推進会議を利用して、積極的な働きかけにも取り組んでほしい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	担当者が記入を行い、管理者が追加を行った。外部評価の意義を理解しており、、職員に説明を行ったり、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域、行政、家族、協力施設等の参加で3ヶ月に一度、開催していたが、現在中断している。	○	ホームへの理解と支援を得る貴重な機会であるので、再開・継続を期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	訪問時に現状の報告、相談等を行っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書を送る際、生活の様子、健康状態等、個々の状況を毎月報告している。金銭管理も記録により明確で、家族の訪問時等、機会を捉え報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、電話や、面会時に意見、要望等を出してもらえるよう積極的に声を掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当初は、職員の入れ替わりが多かったが、現在は落ち着いている。限られた体制の中で、ユニット間の職員も流動的にしており、関係の継続に配慮している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、人材育成の必要性を理解し、職員をできる限り研修等へ参加させ、他の職員に伝達を行っている。しかし職員体制の問題から、十分ではないため、今後ホーム内での研修を取り入れたいと考えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に参加し、他の事業所との交流や、連携を図っているが、職員レベルの交流にまでは至っていない。	○	職員全体で、同業者との交流を図り、サービスの質の向上につなげることを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、職員が自宅を訪問したり、また利用者や家族が施設の見学を行い、利用者の希望や家族の状況を把握しながら入所に繋げるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗い等できることを役割分担したり、職員と一緒に取り組んでいる。畑でスイカや野菜作りをするなど生きがい作りにも努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを使用し、利用者の理解に努めている。また日常の行動や表情、会話から、個々の希望や思いを汲み取るようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族、本人の思いを聞きながら、担当の職員がアセスメントを行い、ユニット会議で他の職員と意見交換を行い計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1か月毎に見直しを行い、家族に報告している。また状況に応じて随時見直しを行い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者希望の美容院に行ったり、通院介助や買い物の同行を行っている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や、家族の協力を得ながら、受診を行っている。通院に同行し、情報の共有ができるようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、医師と終末期に向けた体制作りについて話し合いを行っている。	○	利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、本人、家族の意向を確認しながら、対応方針を共有できるような体制作りに取り組まれたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉がけや対応は、個々を尊重しプライバシーに配慮している。個人情報の取り扱いにも注意し、提供には同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。テレビを見る人、自室でゆっくりする人、また飼い犬の散歩や買い物を希望する人には一緒に外出支援を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者に委託し、ホーム内で作っている。利用者の希望を出したり、おやつを自分たちで作ったり楽しめるよう工夫している。職員と一緒に食事をとり、盛り付けや片付けはできる範囲で行なっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望に添って、毎日時間を問わず入浴できるように支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活暦を把握し、得意とすること、好きなこと、興味のあることを暮らしの中で活かせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等、希望に添って支援し、また室内の中だけで過ごすことのないよう外出の機会を作るよう心がけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない。外出傾向を察知し、その人に合った対応を行っている。家族からは施錠しないことに疑問を投げかけられたが、説明して理解してもらっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。地域の方に参加してもらったり夜間帯の協力体制が課題となっている。	○	運営推進会議において、災害時の協力体制作りに取り組まれたい。また地域における防災訓練等にも参加して双方の支援体制作りを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士により、栄養管理を行っている。食事量、水分量はチェック表に記録し、職員で共有している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は天窓から入る陽の光をすだれでやわらげたり、季節感のある居間やたたみの間もあり、ゆったりできる。掃除も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の好みに合わせ、家族の写真、これまで使っていた物を置くなど、居心地のよい居室となっている。		